

伊勢志摩版

志摩市

各家庭に非常食備蓄

日本推進
機構と協定 希望者に9月配布へ

志摩市は二十日、非常食を詰めた「白い小箱」を家庭に備える運動を進める「日本非常食推進機構」(四日市市)と、災害時に向けた食糧備蓄などに関する協定を結んだ。市内の各世帯向けの小箱を機構から提供してもらう。

(丸山崇志)

小箱には、飲料水二ブドウ糖、簡易トイレ、入りペットボトルなどが入っている。食本や、保存食の乾燥加工米「アルファ米」の「五目ご飯」と「えびピラフ」各一食、固形

費用は、運動に協賛する志摩市阿児町鶴方の社会福祉法人「百楽の会」が、市内の企業や各種団体に協賛金の形で協力を呼び掛ける。八百個の確保を目指す。希望者する市民に九月一日に配布する

市内の世帯数は約二万二千。災害発生時には、同様の協定を機構と結び、被災していない市町村から小箱を回してもらい、配備していない世帯にも届ける。賞味期間は五年間。三年ごとに小箱を交換し、古い箱は発展途上国に贈る。

この日、市役所であった調印式で、古谷賢治代表理事は大口秀和市長と協定書を交わし「各家庭に備蓄してもらうことで、危機意識の向上や継続に役立ててほしい」と話した。

県内で、機構と同様の協定を結んだのは、これで六市二町となった。



協定書を交わす古谷代表理事(左)と大口市長(右)も志摩市役所で



アルファ米や飲料水などが入る白い小箱